

(本メールマガジンは、これまで日越大学構想に関するセミナー・会議等に参加された方や、名刺交換させていただいた方々にお送りしております。)

日越大学は、日本とベトナムの両政府により、両国の友好と結束の象徴として新たに設立された大学です。2016年9月にベトナム・ハノイで開校しました。現在修士課程に約150名の学生が在籍し、日本語と英語を学び、企業管理(MBA)、公共政策、地域研究、ナノテクノロジー、環境工学、社会基盤の各専攻プログラムで勉強しています。

皆さん、こんにちは！日越大学構想・国内支援事務局です。

本メールマガジンでは、毎月1回、日越大学の近況や日越大学を取り巻くベトナムの状況について、読者の皆様にお届けいたします。このメルマガを通して、もっとたくさんの方に日越大学のことを知っていただきたいと思っています。

## 【今月のトピックス】

### 1 日越大学ニュース

#### (1)2018年9月入学第3期生募集中

日越大学では、本年3月と7月の2回にわたり、2018年9月入学第3期生を募集しています。海外からの留学生、特に日本人学生を積極的に募集していますので、ご関心のある方はこの機会にぜひ応募をご検討ください。

募集情報ページ：<http://admission.vju.ac.vn/>

在ベトナム日本大使館ホームページにおいても、募集の告知にご協力いただいております。

[http://www.vn.emb-japan.go.jp/itpr\\_ja/Nichietsudaigaku\\_shuushikatei\\_gakuseiboshuu.html](http://www.vn.emb-japan.go.jp/itpr_ja/Nichietsudaigaku_shuushikatei_gakuseiboshuu.html)

#### (2)学生募集説明会の開催

3月に行われる第1回入試に向け、学生募集説明会を随時開催しています。毎回、30～50名の学生が参加し、日越大学教職員の話に熱心に聞き入っており、説明会では、日越大学で教えている日本人・ベトナム人教員のほかに、現役の学生が参加しています。参加者にとっては、日越大学のカリキュラムの内容や学習環境、また日本でのインターンシップなどについて、具体的に話を聞く機会となっています。日越大学では、4月以降も毎月説明会を開催する予定です。

### **(3)日本からのフィールドトリップの受入**

#### **・福岡女学院大学**

2月27日、福岡女学院大学より11名の学生がフィールドトリップの一環で来学しました。今回参加した学生は、自らの希望で本プログラムに参加され、ベトナムへの関心がとても高い学生ばかりでした。当日はベトナムの旧正月直後でしたので、伝統的なお正月料理のバインチュンをナイフではなく、バインチュンを縛って保存する「竹紐」を使って切り分けるゲームを行いました。ベトナム古来の生活上の工夫を体験し、大変有意義な異文化交流イベントとなりました。

#### **・沖縄 Global Job Challenge Program**

3月5日、沖縄県が実施する「沖縄若年者グローバルジョブチャレンジ」による学生6名が、日越大学を訪問しました。オアイン副学長からの歓迎スピーチの後、学生は日越交流史や日越大学の設置経緯、大学の紹介などを聴講しました。その後、女子学生はアオザイに着替え、日越大学学生との交流プログラムを行いました。沖縄からの学生は、慣れない英語に苦労しながらも自己紹介や日本文化の説明を行った後、日越大学学生との昼食会を挟み、ベトナム最古の大学跡である「文廟」を見学しました。学生同士は英語と日本語で交流し、大いに実りある時間を過ごしました。

### **(4)越村東急グループ最高顧問来学**

3月5日、「日越大学構想の推進に関する有識者会議」座長でもある越村敏昭東急グループ最高顧問が来学されました。古田学長との意見交換の後、本学が昨年実施したインターンシップについて、学生8名との意見交換を行いました。学生からの報告に対し、越村最高顧問からは「日本の大学が実施しているインターンシップとは異なり、期間も比較的長く、様々な経験を今後活かすことができる内容であり、非常に有益なものであったと理解した」との評価を頂きました。

また学生に対し、リベラルアーツ教育が企業にもたらす重要性、必要性について、実例を交えながらミニ講義を行って頂きました。

### **(5)特別講演開講**

#### **・ナノテクセミナー「Computational Biology for Bioinformatics and Medical Innovation」 開催**

3月3日、ナノテクセミナーが日越大学で開催されました。このセミナーは、カリキュラムの改訂により日越大学ナノテクノロジープログラムの第2期生から設けられた科目で、プログラムから提供されるナノテクに関する最新の話を通じて先端科学を学ぶことや、各指導教員との議論や文献調査、外国書購読を通じた専門的な学びを目的としています。本セミナーでは2件の講演を設け、ナノテクノロジープログラム第1・2期生の学生18名、日越大学教職員関係者7名の他、外部か

ら3名の参加がありました。

前半の講演は、お茶の水大学・基幹研究院自然科学系の由良敬教授からいただきました。現在、由良先生はお茶の水大学シミュレーション科学・生命情報学教育研究センター長の他、早稲田大学の教授を務められています。分子生物学の基本から、計算科学と情報科学をあわせた遺伝子解析の最新の研究実績をお話され、分子動力学シミュレーションの動力的手法を用いた先端計算生物学の成果もあわせてご紹介いただくなど、当該分野について、学生、教職員ともに有意義な意見交換ができました。講演後は、昨年のインターンシップで由良研究室に滞在していたナノテクノロジープログラム第1期生の女子学生が、由良先生と熱心に研究打合せを行っていました。

後半の講演は、ベトナム国家大学のToan T. Nguyen 准教授にお願いしました。Toan 先生は、現在ベトナム国家大学の Key Laboratory と言われる重点分野の研究を担っている新進気鋭の研究者で、日越大学では必修科目の Quantum Mechanics (量子力学) の講義を担当されています。大規模分子動力学シミュレーションにより、DNA 構造のねじれとキック現象について研究を行っており、将来創薬など医学分野でのイノベーションが期待できる講話をいただきました。豊富な解析結果から導かれる種々の知見に基づいて意見交換できたことは、当該分野を重点分野とするナノテクノロジープログラムにとって大変参考になるお話でした。

#### ・2018年春季特別講座「企業の危機管理と法」

3月5~6日、佐藤安信先生(東京大学教授)、内藤加代子弁護士、塚原長秋弁護士、田丸祐輔先生(一橋大学法学研究科博士後期課程)をお招きした特別公開講座「企業の危機管理と法」が開催されました。この公開講座には、日越大学学生のみならず、Hanoi Law University や School of Law (VNU) など他大学の学生も約50名参加しました。本講座では、国際仲裁や契約、会社法やコーポレートガバナンスなど、公共政策や企業管理に強く関連した法内容が扱われました。講義終了後は学生から多くの質問があり、活発な議論が行われました。

#### ・片岡幸彦名誉教授による講演会

GN21 代表の片岡幸彦氏(元ハノイ国家大学客員教授、学長顧問、元羽衣国際大学副学長)による2回の講演会が日越大学にて開催されました。第1回は「科学技術の発展と私たち人類の未来」第2回は「私たちはどこから来て何処に向かっているのか」という演題でした。

講演では、現代社会の急激な科学技術の発展と人間性との調和を保つことがサステナビリティ学の最重要課題である点について、様々な視点や社会現象をもとに説明されました。また、現代社会が直面する三大危機を「原子力エネルギーと放射能」、「AI(人工知能)」、「バイオテクノロジー」とし、第1回ではAIが今後の人間社会へ与える影響の大きさに向けた警告が、第2回ではそうした危機を乗り越えサステナビリティを成功させるためには「人間力」「社会力」「文化力」、とりわけ「文化力」の重要性について述べるなど、リベラルアーツの重要性を指摘いただきました。本講

演会を通じ、多くの学生や教職員は将来の日越大学のあるべき姿を考える上で、貴重な視点や示唆を得ることができたように思われます。

#### ・日本生産性本部による講義

3月10日、日本生産性本部による講義が行われました。講義は3部構成で行われ、第1部は生産性の概要説明、第2部は日本生産性本部がベトナムの中小企業で行っているコンサルティング実例の紹介、第3部は学生グループ分けによる生産性に関するワークショップが実施されました。

第2部のコンサルティング実例では、「ベトナムの会社に対するコンサルティングは、コンサルタントの支援終了後は改善の効果が乏しくなる」、「ベトナムでの5Sは、1回はできるが継続できる例が少ない」等の発表があり、学生も共感することがあったようです。

#### (6)フエでのフィールド演習の実施

2月26日から3月4日にかけて、日越大学と東京大学が合同でベトナム中部の都市フエとその周辺において、フィールド演習を実施、日越大学の環境工学プログラム修士1年生12名と東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻の大学院生ら計20名の学生が参加しました。演習では、フエ農林大学の講師陣によるセミナーに続き、A So 飛行場跡の枯葉剤の環境影響、沿岸の Tam Giang ラグーンにおける漁業とエコシステムの保全活動等の見学が行われました。また、班に分かれてのフエの Sustainable Development に関する提案型の演習では、学生は深夜まで英語で熱心に議論し、その成果をフエ農林大学において発表しました。最終日はホイアンに宿泊し、学生たちは国籍を超えて深夜まで交流を深めていました。

## 2 日越大学で働く専門家の紹介

### 【第9回： 渋谷陽二専門家、Dinh Van An 専門家（ナノテクノロジープログラム）】

ベトナム・ハノイの日越大学で働く方々を紹介するコーナー。今回は、渋谷陽二専門家、Dinh Van An 専門家（ナノテクノロジープログラム）をご紹介します。

(渋谷陽二専門家)

ナノテクノロジープログラムのディレクターを兼任し、現在大阪大学の教授として機械工学専攻の固体力学分野で教育研究に携わっておられます。「何の因果か、日越大学の修士課程設立プロジェクトに関わり、距離を置こうと思うほど日越大学が近くに忍び寄ってきて今年の4月に赴任した」とのことでした。主たる任務である大阪大学での教育研究業務との掛け持ちができるかどうか、2年前の暮れには随分と悩まれたそうですが、次の2つの出来事が渋谷専門家の心を動かしました。1点目は、第1期生の入学です。ナノテクノロジープログラムでは、基礎能力評価として数学の問題を課し、面接試験とあわせた総合的な判断のもと優秀な第1期生8名を合格させました。合格さ

せてしまった以上、少なくともこの 8 名に対しては、大阪大学で預かっている学生と同様の取り扱いをしなければならないと強く感じたそうです。2 点目は、日越大学の紹介に関わる講演をしていたときに、ある大学の先生が「やっぱり現地にいかなあ、何もわからんのとちゃう」と言われた一言です。その先生はご自身の発言をすっかり忘れられているようですが、渋谷専門家にはその一言が喉に引っかかった小骨のようにとれなかったとのことでした。

海外協力、特に教育機関を海外で設立するということは、とてつもない資金、人的能力、知識と知恵、経験と創造力、人的関係の摩擦に耐えうる耐性、相互理解のためのコミュニケーション力、その地の風土になれるための柔軟性と体の適応能力（高温多湿の春夏秋、低温多湿の冬）等が不可欠です。それらを投入・投資した我が国にとっても、またベトナムにとっても、日越大学が核となり明るい未来が拓がることを目指して、日々ハノイ名物のバイク洪水の中を通勤されています。

（Dinh Van An 専門家）

1985 年フエ大学卒業後、フエ大学・物理学部で講師になり、1996 年に日本文部科学省奨学金を受け、大学院留学生として大阪大学・理学研究科で物性理論学を学び修士・博士号を取得し、その後は大阪大学・産業科学研究、基礎工学部に勤務されていました。2009 年から 5 年間に国立研究開発法人物質・材料研究機構で勤務し、2014 年に大阪大学・工学研究科に戻られ、2016 年 6 月から日越大学プロジェクトの長期派遣専門家として赴任されました。

専門は物性理論、計算材料科学で、特に Nanoscale simulation 方法を用い、将来の電気時代の Spintronics 材料、二次電池材料を調べ、設計することです。現在、上記の分野以外、初期ガンを検討するためのセンサー材料の設計にも注目しており、環境整理フィルターの材料の設計にも携わられています。日越両国の教育を受け、講師や研究者の経験もあり、日本の習慣やベトナムの大学環境にも良く理解されていますので、国際研究大学としての日越大学の発展に貢献して頂けるものと期待しています。

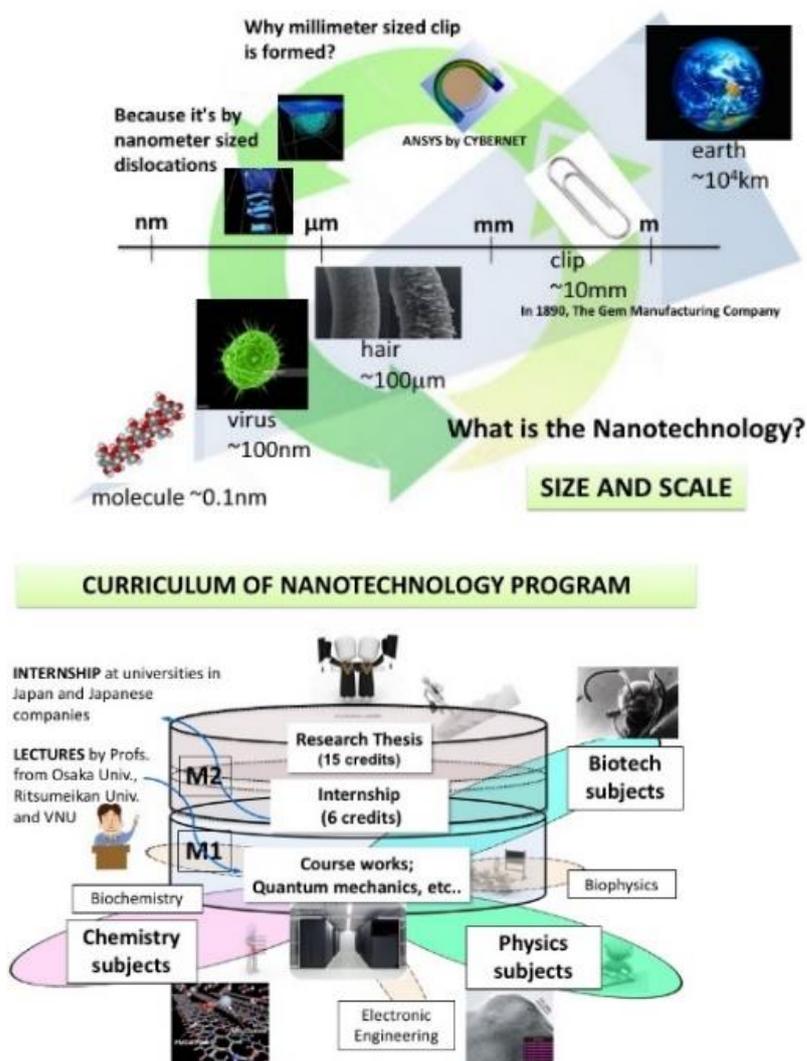
### 3 プログラム紹介

#### 【第 7 回 ナノテクノロジープログラム】

本プログラムの紹介は、一つの問いから始まります。入学してきた学生に対して常に問いかけることに、「ナノテクノロジーって、何だ？」ということです（図 1 参照）。これは、学生だけではなく、このプログラムに関わる教員に対しても同様の疑問を提起しています。10<sup>-9</sup>メートルの非常に小さなナノスケールの自然科学現象を研究しているのかと問われると、分子や原子、DNA といったサイズは確かにその大きさと、その振る舞いの理解を学んでいることは事実です。でも、それではまだ言葉足らずと言えます。我々の目に見えるスケールは 1 メートルに代表される空間ですので、10<sup>9</sup> 倍のスケールギャップをよく理解しておく必要があります。ナノテクノロジーという学術分野

は、時空間におけるそのようなギャップを深く認識し、対象とするサイズにおける現象を深く理解することにつきますと思います。自然現象では、よりミクロな世界に入るほど我々が便宜的に使っている学術分野の境目は見えず、物理、化学、生物といった幅広い分野が学際的に入り交じることが本質となります。もしそうであると考えれば、その理解を導くカリキュラムをこのプログラムで展開し、その学びに応じた修士研究を展開することが最も重要になります（図 2 参照）。その構想を具現化したのがこのプログラムです。学部時代に学んだ専門分野と異なる分野を学習する必要がありますので、極めて大きな負荷をかけていることは承知の上ですが、いま世界的に見てもどこにもない教育研究体制であると言っても過言ではありません。

まだ、開学して 2 年足らずですので、先端研究を実施できる研究環境には程遠いと言えますが、本プログラムとしては、i) バイオセンシング分野、ii) 材料科学分野、iii) 計算科学分野の 3 分野を主たる研究分野として、日本の大学との共同研究そして日越の企業との産学連携を促進していくつもりです。（ナノテクノロジープログラム日本側ディレクター 渋谷陽二（大阪大学））



上：図 1 サイズとスケール 下：図 2 ナノテクノロジープログラムのカリキュラム構成

【お問合せ先】

(独) 国際協力機構 (JICA) 東南アジア・大洋州部内

日越大学構想・国内支援事務局 神田・新村

Tel: 03-5226-9065 E-mail: 1rtd3-vju@jica.go.jp

日越大学 HP <http://admission.vju.ac.vn/>

JICA HP <https://www.jica.go.jp/project/vietnam/040/index.html>

日越大学 Facebook (ベトナム語) <https://www.facebook.com/vju.edu.vn/?fref=ts>

日越大学 Facebook (日本語) <https://www.facebook.com/jicavju/>

【メール配信停止・変更】

本メールマガジンの配信停止・宛先の変更・追加をご希望の方は、お手数ですが、日越大学構想・国内支援事務局 (1rtd3-vju@jica.go.jp) までメールにてご連絡をお願いいたします。